

- Rossoni, A. W., Price, D. C., Seger, M. *et al.* 2019. The genomes of polyextremophilic cyanidiales contain 1% horizontally transferred genes with diverse adaptive functions. *eLife* 8: e45017. doi.org/10.7554/eLife.45017
- Schulz, F., Roux, S., Paez-Espino, D. *et al.* 2020. Giant virus diversity and host interactions through global metagenomics. *Nature* 578: 432–436. doi.org/10.1038/s41586-020-1957-x
- Sun, C., Feschotte, C., Wu, Z. & Mueller, R. L. 2015. DNA transposons have colonized the genome of the giant virus *Pandoravirus salinus*. *BMC Biol.* 13: 38. doi.org/10.1186/s12915-015-0145-1
- Van Etten, J. L., Agarkova, I., Dunigan, D. D., Tonetti, M., De Castro, C. & Duncan, G. A. 2017. Chloroviruses have a sweet tooth. *Viruses* 9: 88. doi.org/10.3390/v9040088
- Wilson, W. H., Schroeder, D. C., Allen, M. J. *et al.* 2005. Complete genome sequence and lytic phase transcription profile of a *Coccolithovirus*. *Science* 309: 1090–1092. doi.org/10.1126/science.1113109

(2021年8月10日受付, 2021年10月9日受理)  
通信担当編集委員: 矢吹 彬憲



## 『万葉集』に隠れたアラメとカジメ?

仲田 崇志

この歌は『万葉集』の一首(740年前後作か\*)で、「もうすでにこれ程までに噂されてさてわが君よこの先どうなるの」との意味である。『万葉集』にはいくつかの海藻が詠まれたが、アラメやカジメを詠んだ歌はない(中西 1985. 『万葉集事典 万葉集全訳注原文付 別巻』 pp. 304–333)。しかしこの歌にはアラメが隠れている。末尾の「あらめ」は「なるだろうか」の意だが、「荒海藻」と書かれた。身近な食材だったアラメを言葉遊びに使ったようだ(廣野 1998. 『食の万葉集』 pp. 146–147)。

冒頭の「あらかじめ」もカジメに掛かっているかと思いきや、これは考えすぎらしい。古代、カジメは「かちめ」、「豫」は「あらかしめ」と読まれ、発音が異なっていた(例えば『類聚名義抄』)。ちなみに当時「かちめ」は粉末状に加工したアラメを指していた(関根 1969. 『奈良朝食生活の研究』 pp. 96–97)。

安土桃山時代までに「かちめ」は一部で「かぢめ」に、「あらかしめ」は「あらかじめ」に濁った(例えば『日葡辞書』)。「ぢ」と「じ」の発音の区別も江戸時代にはなくなり(松本 1995. 佐藤編『概説 日本語の歴史』 pp. 98–114)、1946年告示の『現代かなづかい』からは表記も「かじめ」と「あらかじめ」になった。1200年の時を超え、カジメの言葉遊びまで成立してしまったわけだ。

\*坂上郎女が娘婿に送った歌とされるため(岡田 1990. 日本文学研究 26: 1–11)、娘の誕生時期(720年代後半か)と『万葉集』1～16巻の成立時期(744年まで)から740年前後と推定した。

あらかじめひとごとしげしかくしあらば  
 豫 人事 繁 如是有者  
 しゑやわがせこおくもいかにあらめ  
 四惠也 吾背子 與裳 何如 荒海藻  
 おほとものさかのうへのいらつめ  
 大伴坂上郎女

『万葉集』4巻 659番. 原文・読みは中西(1978)『万葉集全訳注原文付(一)』p. 322に依る。